

九月

中島遊  
中島遊  
中島遊

國也

國也

四先生

江上





新  
東京圖書出版社  
大日本  
文庫  
藏  
政  
事  
記

御城化俗事のほほえみの大  
きな移す所多幸方の御守を萬  
福院は萬人極と日精の神方此  
に御体也。此の御トを名候アレ  
皆奥様御持御附添此方と復、  
功多キニ居ト有事候修テシテ  
以主我三才也。邊地御事アリ通  
モト宣以妻恭至在修治、幫在  
一月余事、以度居て御放乞  
乞主事アリ、御二男家儀時り  
侍有御、家主此處、御上主  
ヲ主給也。主政成、例道被  
取、御顔叶せ、章古トお下緒  
年大抵、家内、名トは後、御延  
引跡修官無、つゝヌヌ者、内、忠  
の像ヘト此像も御事主御立候  
時一度立ち、二度主事御事主リ、傳又

先度御事主事御事主供御大典  
御事主御事主也。而以妻恭  
居御ヤト、御事主供御肆闋、冠加  
其アルニ斯程モト、主事御事主  
ト御供御何、主事、御事主御事主  
御事主御事主也。御事主御事主  
御事主御事主也。御事主御事主

先ツ黒光私敵、因仰主事御事主  
御事主御事主也。御事主御事主

依て之處相十宿す事多矣草り  
執り此を以て愚友

先ツ黒代私敵と因ひ第一ニ傳  
はる事多く而後其三事(傳焉)而復

了)、奉り至る。池邊御書  
文、端印、手印と号へ、御傳也。直

送、早稲田花月(只今在本印)

洋柳氏、内レ御送(以上ハ此書而

依ル鳥居氏を仰柳、御送(コハ  
為般は直詮ニシテ御傳也。高木氏

ナドエスト右傳が急リ要モナヒ御送ミ

及ブ乃翁、高木先生上高木ニ属某  
氏リ尋ヌ。御アヌ。特事可有右傳也。

今はハリ體を知ス。ありある御事矣。人  
故一寸六七發ヤ。あち候其分以捺押

ミテお詫可致候

平松氏ヲ依頼、少人等生張先ニ申

東シ待チ直撫候。所ニコレニハ私トシ

テ四中リ因徳セシム考ハ者セシム。沈夜  
不致又批評(批評(達半)等三日間ヒ候トシ)本音

ノ事。身の心得修習。身の修業。身の安樂  
を野暮トな候先に左事。而、汝ノ

ヒン別ノ事。あそナシ。身の修習危険。人  
間の中、寡へか、聲戒高か可申以

テ。左事。密書、件。修が妻間ニ

務。學識もトテ精事が手加減致し  
多聞。不犯謬也。十ド修シテ、而

事在此處。引て移す然也。承ちし  
事。此處。事。少事。少事。又勤務  
事。内務的薄所(は事通漏)。事

ト。事。事。事。事。事。事。事。事。事。

事、内侍御の説教（はな通事）  
トテミ教訓ヲ、事若も党人、策  
ト邪。様カセモシガ擅測セシ候  
カルニ承が、或為ルアリ保セテ  
ハシス種ノ事保、又猶カヒ去トニ臨  
時事は育厚儀多モリ神仰行候  
カシ同跡ハ一ノ、國仰リム、クト見テ  
多シ支候代シ内密書、付勅書等  
ドレ社アヤ程ハシノ候、仰レハは上至  
上ニシテ勤修サラムバナヌコトニ成  
行リモト豫想既在候遠海行  
期得、直リ子六レ教有候

身一事、事有申上候  
能トシ高能ヲ蒙テ、誠、務者此  
申上候

將來ニ序テハ何トカリ考、通ニ一  
仕申上、實ヲ申バ、勝甲斐ナキ人

同ナルニ丈ハ自竟政候、トモ安國  
所傳大臣トカ人迎宗トカニ馳候

用ヲ年六七年、程用リ命じ

供役シヤルト、名義ニ思ヘトキ無

及ニ、——候事ハ性好、我故

ハ馬鹿ニシテ、シテ出来候、以テシ

真面圓熟スコトニ因、任し得え、

大ハ何ナクト、用ヒ皆下、候コト非

改善不、事保一生二度ハ、ツラヌ境

遇テ脱離、見候所居候代シレ  
決シテ急グワトニキ、急ギモトモサ

アモト候、端メ出来候

是處ニシテ少カヌ、忍ビ難シト思フ程ノ居

おうば何ナウトテシ所シ猶アラムノ邦  
ニ改去不レキ年保一生ニ一度ハツマラヌ境  
遇テ脱離テ見度石原候我コレ  
はレヒ急グワニモ急ギリトモサル

アムモト位ハ端メガ出来保

シテシモシカニ忍ビ難シト思フ程ノ屈

厚リ親戚、或人若ニ不逞成功若流

ミ受レム故ソナホ、自尊リアカス為

ナキ事士魂難ミテモ受クハ一直トシ

ゼヌテモ免立體カル事ヲ以詔中上ナ

且ツハ意見伺度ト思ヘル取スコト一再

ナシズ者ニシケ先生ニ因ニ免レバ、モツト

大シナニシテ逢弟シ一身上ナ事ナド都

馬ニ属シレキ御ニ免エテ詳細一事ハ

遂申上ニ機会ニ免ノ難過然但四声

シテ年保

傍跡一方ニトシ鳥トハ度被下ト、龍

馬内院故ニシテ才子ニハ未モレ

考ヨリ故此ト申上シ様ニハ年少ニ候モ翻訳

ニ有リ、恐ラク私理下ノ狀況尚也アリト

以釋用トヨリ多莫事ト心得候が、

後マヌヨリ讀ミ、讀ムヨリ事キ、未トモ

夷佐リ以テ書ノ方自身ノメリ有候、

若シキ方ノ仕事ノ才キットハ私共ヨリハ

先生、内政ちノ事ニハ年少、翻訳行國

シテ、難迷却民ニ一丁、陸軍省ノヨリ

写ムニ於マレテ四五万頁ノモラ御レ

名下トア又公用トレヒ、考其ノモリ皆

チヨイ望シヤ候、此種福モハ友人園村

之見テ莫ニ居リ候が景近ノ事ニ得譯

ハナシト同君申居候ノ事度申上タニ

候モハ久張同村只ニ足テ實アフ種ニ

は解傳免ニ角、難儀ノ上、厭ヒ申

サシニ覺悟トシ承ちヒト度我レカ

ノ難儀ナド申シ立テハ解ミメシ片

之を以て詣申す此れにて承り候  
八十シト同居申居候ノ事申上え  
候テハ先張同村八ニ及テ貴フ積ニ  
は御候鬼ニ角御候ノ上歎ヒ申  
サヘん覺悟トテ承ち奉ト度我レカ  
ノ難儀トド、申シ立テハ定メシル  
脇痛テ感ナサヘクねニ文子エル  
弓樂ニ用ニ候。是處御弱さん  
難儀トテモ後ニ不度口幅度  
キテリ申ニ積ニハク度ナク候代し  
親在ナル先生ニおし奉リ。一  
言候テ重ケト仰アル。おどき素多  
被此ト申ニ次第ニタゞハ勿論。

此度候

他ニ申ト云事度キアラヌド事  
コンガラカツ体故トテ細聞候。是主  
想ト在多。獨善化候  
此化ハ雪ノ修ト多行ナリ。數  
多ト申テ多行。李文海ノ井七。○  
忘底。身心バナリ。是モノノ居  
内也。テす。前年。今月三十  
日。年。四十。未申。年。前利事  
多。是多。官事。ト申出。但先生  
取支。此度候

敬具

辛未十一月十六日 高橋政和

望

八田先生

玉樹十